

## 第2章 徳島県の森林・林業の現状と政策

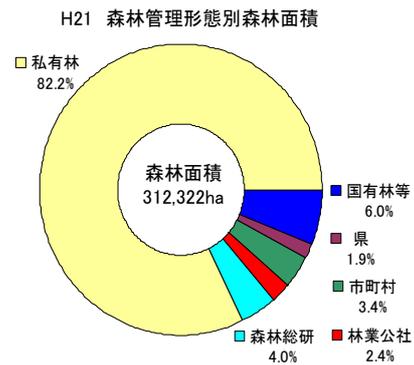
### 1 徳島県の森林の現状と課題

徳島県は、県土面積の75%を森林が占める全国でも有数の「森林県」であり、そのほとんどを国有林以外の森林である「民有林」が占めている。

その民有林は293千haで森林面積の94%を占め、そのうち63%の185千haがスギ・ヒノキの人工林で、その蓄積量は年々増加し続けている。

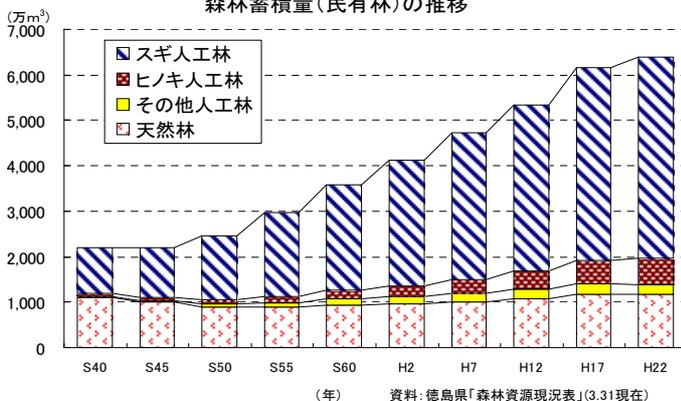
また、森林面積の82%に当たる258千haは、個人が所有する私有林であるが、近年は、木材価格の低迷など林業の収益性の低下等により、管理放棄された森林の増加や、他県では、外国資本による森林買収が懸念されている。

こうした状況から、徳島の豊かな森林を次世代に引き継ぐため、県民総ぐるみで森を支える体制づくりや、森林の管理育成を将来にわたって行う「持続可能な林業経営」の確立が急務となっている。



#### (1) 人工林資源の充実

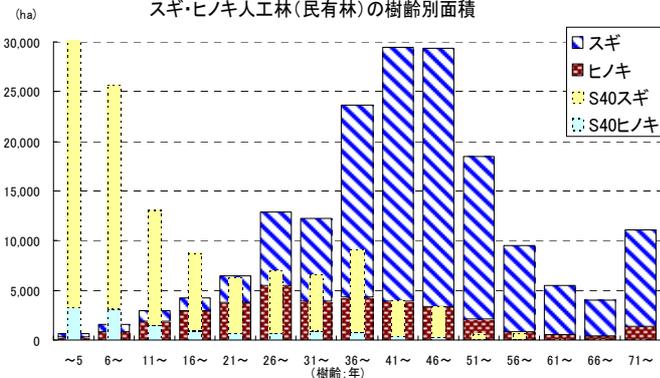
森林蓄積量(民有林)の推移



スギ・ヒノキの人工林は、ここ40年間で成長を続け、蓄積量が3倍の6,000万m<sup>3</sup>を超えている。

これは、現在の木材生産量が約20万m<sup>3</sup>あることから、300年分に相当する量である。

スギ・ヒノキ人工林(民有林)の樹齢別面積

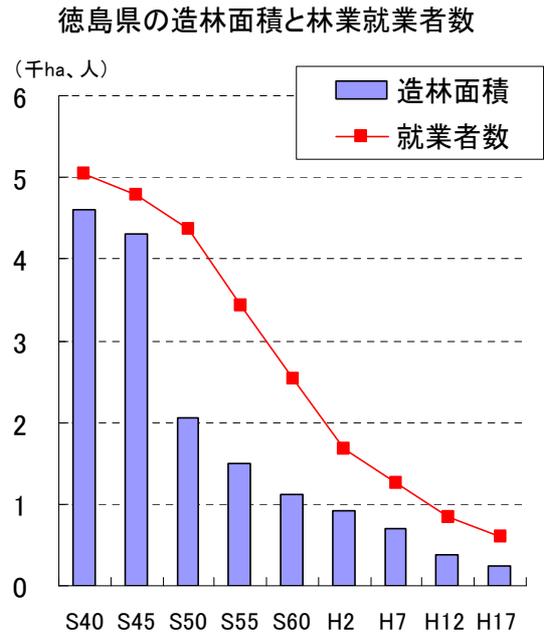
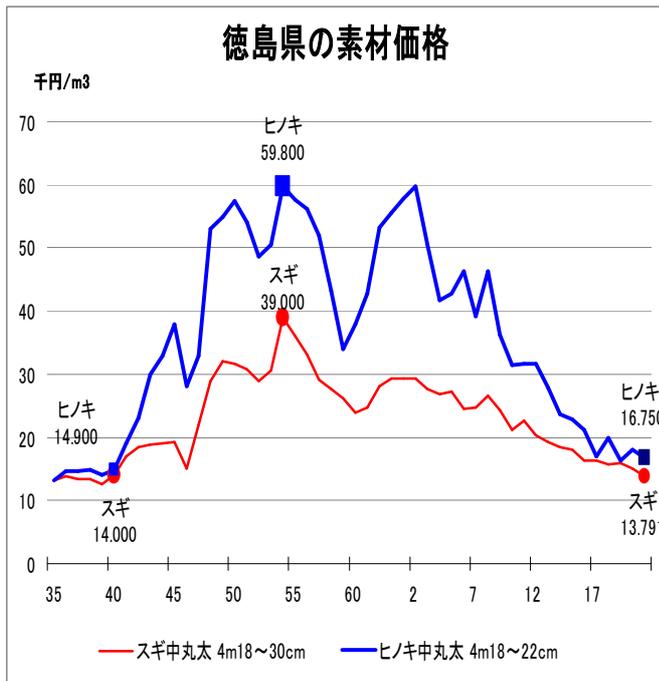


スギ・ヒノキの人工林は林齢の高い森林が増え、今後5年間で51年生以上の森林が過半数を占めることになる。

## (2) 木材価格の下落と林業就業者の減少

高度経済成長に伴う木材需要により高騰を続けてきた木材価格も、昭和54年をピークに下落し、平成7年の阪神淡路大震災以降、一段とその下落傾向は続いている。

このような木材価格の下落や労賃等の経費上昇等に伴う森林整備事業費の増大により、林業の採算性は大幅に低下し、木材生産量の減少や、伐採後の造林事業の減少を招き、林業就業者の減少と高齢化が進行している。



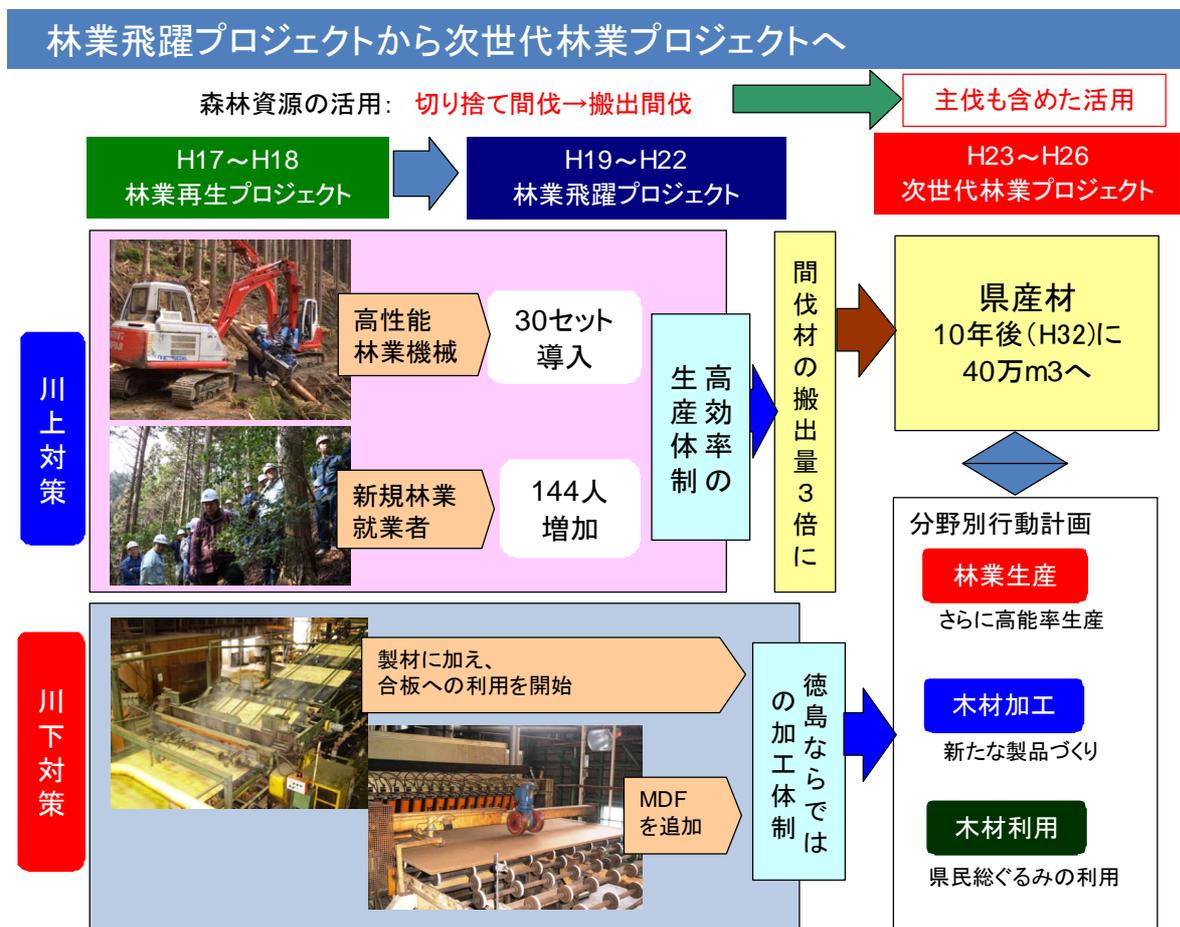
## 2 徳島県の林業政策

### (1) 林業再生・飛躍プロジェクトから次世代林業プロジェクトへ

森林の持つ公益的機能を発揮させ、徳島県の豊かな森林づくりを実現するためには、「間伐」と「間伐材の利用」が最重要課題であることから、平成17年度より、高性能林業機械の導入と、間伐材の搬出経費のコストダウンを図った手法を取り入れ、「伐捨間伐」から間伐材の有効利用を図る「搬出間伐」へ移行し、「川上から川下に至る一貫したシステム」の構築をめざした「林業再生プロジェクト」に取り組んだ。

さらに、平成19年度からは、林業を再生から飛躍へとステップアップさせるため、間伐材の更なる増産とそれに見合う流通・加工体制の充実強化及び木材利用の拡大を図る「林業飛躍プロジェクト」に取り組み、間伐材の生産量の倍増を目指した結果、平成22年度末には、川上で30セットの高性能林業機械が導入され、新規林業従事者が144人増加するなど、生産体制の強化が図られるとともに、川下の合板工場やMDF工場等への間伐材の安定供給が可能となった。

これらの実績を踏まえて、平成23年度からは新たに徳島県の最重要施策として、10年後の県産材の生産倍増、消費倍増を目標とした「次世代林業プロジェクト」に取り組んでいるところである。



## (2) 県産材利用促進の取り組み

### ① これまでの取り組み

徳島県での特徴的なこれまでの取り組みは、まず、平成3年からの「県産木造住宅供給システム」の構築を図るプロジェクトである。明石海峡大橋の完成まで3000日前に行う、関西圏をターゲットとした県のプロジェクトの一つであり、「木材供給県」から「木造住宅供給県」へとより高い付加価値の醸成を目指したものである。

具体的には、関係者を集結し、平成7年(1995年)～平成8年(1996年)「徳島すぎ」を住宅に使用するためのパイオニア的な組織を構築(TSウッドハウス(協)、那賀川すぎ共販(協)、スーパーウッディシステム(協)、ハウスG住宅センター(協)等や「徳島県木の家づくり協会」の設立)によって、徳島すぎを構造材で使用、加工板として内外装に多量に使用など、全国的にも先駆的な取り組みが実施され、毎年100～150棟の県産木造住宅の供給が実現していった。なお、この時期に全国的な産直住宅ブームもあり、その火付け役にもなった。



その後、長期的に国内経済がデフレ傾向となって木材価格は下落、特に良質材の価格は下落したが、平成16年(2004年)頃には、中国などの新興国の台頭が顕著となり、外材を取り巻く世界的な情勢が一変した。原油高騰で輸入コストが上昇し、これまで、南洋材(ラワン)、北洋材(ラーチ)と外材だけを使用してきた合板工場が国産スギを使用することとなった。県内にいわゆるB級グレードの低質材ながら、大量のスギ需要先が出現したことで、県は平成17年度から搬出間伐を強力に進める「林業再生プロジェクト」を開始、さらに平成19年度からMDF用のチップ材(いわゆるC級材)も含めた利用を進める「林業飛躍プロジェクト」と展開しており、このような近年の県産材需要拡大は、県産木造住宅でのA級材に加え、それまで需要のなかったB、C級材の積極的な活用とその供給体制の構築を精力的に行ってきたものである。



### ② 公共建築の木材利用促進法の制定

国では平成21年(2009年)12月30日に国の成長戦略の基本方針が閣議決定され、平成32年(2020年)までに木材自給率を50%以上とすることが示された。

この方針のもと「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」(以下、「木材利用促進法」という。)が制定され、平成22年(2010年)5月26日に公布、平成22年(2010年)10月1日から施行されている。

この法律により、これまで不燃化、非木造化を指向してきた国の考え方は大きく方向転換されたといえる。

「新成長戦略(基本方針)」 H21.12.30 閣議決定

～ 農林水産分野の成長産業化 ～  
2020年までに木材自給率50%以上

- ・国産材の利用拡大
- ・木質バイオマス利用
- ・森林・林業の再生

「木材利用促進法」 H22.5.19成立 5.26公布 10.1施行

～ 国・地方公共団体の率先利用 ～  
低層建築物の原則、木造化



### (3) とくしま公有林化拡大戦略

平成 23 年度から公益的機能の発揮が特に重要な森林について、公的機関が所有あるいは管理する公有林化を図るため、「とくしま公有林化拡大戦略」に取り組んでいる。

既に、公社では全国初の取り組みとして、未整備森林等を取得整備し、地域のモデル林として造成する「とくしま絆の森事業」に積極的に取り組み、これまで 1,342ha を造成している。

また、地球温暖化防止条例に基づいて、CO2 吸収源として企業との協働による森林づくりを進める「とくしま協働の森づくり」や、国内の排出権取引である J-VER 制度の活用の外、徳島県では、公有林化を進めるために、平成 23 年度に「とくしま豊かな森づくり事業」を創設し、市町村による森林取得を支援している。

**● 「県民共通の財産」として森林を取得**  
 → 管理放棄森林の解消、良質な水源の確保

**取得管理** 全国唯一

**【とくしま絆の森】**  
 林業公社による森林取得

- ・ 1, 342ha の取得



ボランティアの森づくり

**取得管理**

**【とくしま豊かな森づくり】**  
 市町村の森林取得

- ・ 豊かな森づくり推進基金を創設  
 H23年度スタート4億5千万円
- ・ **市町村の森林取得を支援**
- ・ ニホンシカ対策を推進

中四国初の  
 公有林化  
 支援



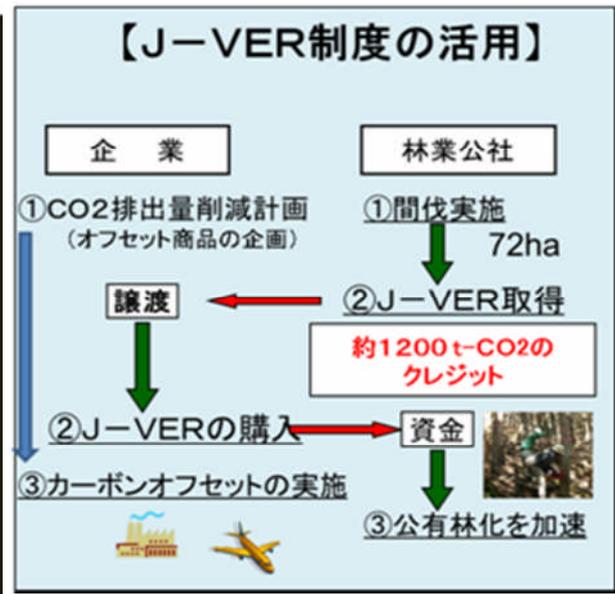
**協働管理**

**【とくしま協働の森づくり】**  
 日本一 (H21.6月～)

- ・ **企業56社とパートナーシップ協定**
- ・ 「約3千8百万円」の寄附金
- ・ 植林や間伐など、「約184ヘクタール」の森づくりを実施中



トラック協会(阿南市) CO<sub>2</sub>吸収量証明書



#### (4) 「産業」と「環境」が両立する林業政策

森林は、その育成期間において、光合成によって二酸化炭素を吸収して有機物を生み出し、酸素を発生させる。同時に、根茎の発達などによって保水力を高め、表層土壌を守る働きがあり、周囲に多様な生物が成育できる環境を整える。このような長期にわたる高い環境機能を有している。

一方、県土は全般的に平均傾斜が高く厳しい地形条件の中にあり、このような山間地においては、林業が極めて重要な産業である。

したがって、山村に暮らし、地域を支えて行くには林業の復活以外に道はないと言われるところであり、補助金等の公的資金に大きく依存した現在の森林整備から脱却し、本来の姿である木材代金で森林の整備費用を賄えるよう、各方面の整備や支援を行う必要がある。

将来的には、森林整備は木材生産活動という経済活動に支えられ、森林所有者や林業労働者の生活が成り立ち、地域の雇用・経済を維持発展させると同時に、整備された森林が地域の環境を超長期に保全していくようになる循環的なサイクルを目指すものである。

このようなサイクルの確立が「産業」と「環境」の両立であり、前述の「次世代林業プロジェクト」、「とくしま公有化拡大戦略」は、これに向かうための産業面、環境面の両輪の政策として取り組んでいる。

